

学校関係者評価報告書

令和8年6月24日

和歌山県立高等看護学院長 様

学校関係者評価委員長
氏 名 栗原 久美子

和歌山県立高等看護学院学校評価規程第13条に基づき、令和7年度自己評価に対する学校関係者評価を以下の様に報告します。

学院自己評価項目	評価結果
I. 総括的評価 ① 評価基準に基づく点検結果 (9領域65項目) ② 教育実績	① 令和6年度評価結果から課題を抽出し、令和7年度に取り組んだ内容はかなり充実していると評価する。看護教育を取り巻く環境が大きく変化する中で、学院が地域の期待に応え続けるために客観的な自己評価をされている。また、教育目標がはっきりしており、教職員全体の教育に対する意識の高さ、新しい取り組みへの積極性を高く評価する。全体を通して大項目すべての評価値は、維持・増加となっている。今後も地域に根付いた看護学校として役割を意識された活動を期待する。 ② 定員充足率は80%に留まったものの、国家試験合格率は100%であり、県内就職率は前年度より減少したが(81.6%)、40人は県内就職しており、県の人材確保(看護師確保)に貢献している。また、公開授業をはじめ積極的に対外的な教育活動に取り組んでいることがより社会貢献に繋がった。学院の使命として県の看護師事業への積極的な参加や学生と学院のニーズが合致する学生確保に取り組み、質の高い看護師養成に尽力されることを掲げられている点も高く評価する。
II. 重点課題評価	評価結果
《重点課題Ⅰ-1》 新カリキュラム強化改善	新カリキュラム開始後、強化・変更した科目や教育方法について定期的に見直しを行い、カリキュラムマップも完成され、より良い学習に繋がっている。今後もカリキュラムの評価と更なる改善に向けて尽力いただきたい。
《重点課題Ⅰ-2》 学生個々の強みを活かした学習支援	令和7年度は「強みを活かす」取り組みとして、レジリエンス教育は継続的・段階的に実施され、学習支援との連動を図るなど学生に効果的な取り組みをされたことを高く評価する。教員においては、学生との関わりの中で教員が感じる「成長感」を振り返ると、教育実践を続ける動機づけになり、専門職としての自覚も高まる。今後も「強み」を理解し、さらに行動変容に繋がる取り組みを行っていただきたい。
《重点課題Ⅲ-1》 DXプロジェクト推進	医療や社会がDX化していく中で、「何ができる人材に育てるか」を軸に看護学校も考え続ける必要がある。厚労省の「看護DXハンドブック」では、看護教育DXは学生と教員がデジタルツールを使いこなす力とデータに基づく思考力を育てることが目的と示されている。「育てたい力」を整理され、DXと相性の良い教育設計をしていただきたい。Wi-Fi環境整備や電子カルテも導入予定となっている。今後さらにDX推進に向けて課題を洗い出し、取り組んでいただきたい。DXは場合によっては教員の負担にも直結するため、組織的な体制作りにも配慮いただきたい。
《重点課題Ⅲ-2》 安全・安心な教育環境の保証 (ハラスメント・合理的配慮・防災等)	規定やガイドライン、相談フロー等は学生に対し、ガイダンスやHRを活用し周知された。教員による指導や評価、実習場面での言動などが問題になりやすいと言われる中、教員に対しては学習会をするなど前年度より引き続き認識を高めるよう働きかけられた。安心・安全な環境を提供されている取り組みを高く評価す

	る。学生に対する合理的配慮は、対応事例があれば法制度や各校が定める規定に基づき対応していただきたい。災害等に関しては災害リスクの意識啓発を継続され、学院内におけるマニュアルを完成させていただきたい。今後もさらに教育環境保証のため、相談しやすい環境づくり、学校関係者を含めた協働体制に取り組んでいただきたい。
《重点課題Ⅳ－１》 学生確保対策	少子化や大学志向等を背景に、看護系養成所の入学者が減少し、「人材は必要なのに学校に人が集まらない」ねじれ現象の中、進路相談や高校・中学校の管理者訪問を行い、ターゲット層の拡大や積極的な広報で中長期的学生確保対策に力を注がれたことを高く評価する。学生生活の円滑な移行支援として、入学前課題の提示や入学前授業見学などが学生から高評価を受けており、できることは十分されていると考えられる。今後さらなる学校の魅力を伝え、学びやすい環境づくり等に尽力いただきたい。
【総括】 学校運営に関して、「地域に根づいた看護学校」という強みを活かし、常に前年度の課題を踏まえて工夫されるとともに、内部に留まらず外部に開いた運営もされており、「学校運営の工夫」が伺える。また、常に新しい取り組みをされ教員全体の教育に対する意識の高さを評価したい。社会情勢の変化への対応や、地域との連携のさらなる強化、学生募集の工夫など、学校運営の質をさらに高めるため今後も教職員全員で取り組んでいただきたい。	